

<多文化共生特論 (Cross-Cultural Talk 2016)>

日時：2016 年 10 月 28 日（金）13:00-20:30・29 日（土）9:00-16:30

場所：あいち健康の森プラザホテル

2016 年 10 月 28 日（金）から 29 日（土）の 2 日間にかけて、あいち健康の森プラザホテルにおいて「多文化共生特論 (Cross-Cultural Talk 2016)」が行われた。今年は “Multidisciplinary research ~ Cross-Culture & Cross-Research~” をテーマに実施された。また例年どおり全てのプログラムは英語で実施された。

28 日の午後は、東村博子プログラムコーディネーターの開会の挨拶に続いて、チームワークを養うためのワークショップ、及び学際的研究について学ぶための 2 つの講義が行われた。1 つ目の講義は、名古屋大学農学国際教育協力研究センター准教授の伊藤香純先生による “What is Interdisciplinary Research?” であった。ネパールやカンボジアでの研究プロジェクトの紹介も含めて、学際的研究の実際や課題について講義いただいた。2 つ目の講義は、名古屋大学法学研究科教授の田村哲樹先生による “How do political studies handle gender?” であった。家族間の意思決定も「政治」であると捉え直すと、ジェンダー格差の是正に役立つ可能性があるとの見解が示された。夕食後は、2 期生主導で参加学生がお互いの文化的背景を知るためのグループワークが行われた。

29 日は午前「アジアのウェルビーイングの実現に自分の研究はどのように役立つか」をテーマに 1 期生主導でグループディスカッションを行い、各学生は自分の研究がどのように実践に移せるか発表し、グループ内で意見交換を行った。午後はグループディスカッションの内容についてグループ毎にスライド発表を行い、その後、活発な質疑応答が行われた。最後に各研究科のプログラム担当教員から講評が述べられた後、プログラムコーディネーターより閉会の挨拶があった。

今回の多文化共生特論は初めてウェルビーイング・プログラムの履修生のみで実施された。一期生・二期生・三期生あわせて 45 名が出席し、教員も合わせると総勢 70 名の出席者があった。出席者の国籍は 15 ヶ国にわたり、学生は多国籍な環境の中で講義を受け、グループワークに取り組むことができた。また、今年度は 1 期生と 2 期生が複数のセッションの企画に携わり、司会進行役を務

める等、学生の成長を実感することができた。プログラム内の学生ならびに教職員の交流を深める場ともなり、プログラムの理念を関係者で改めて共有できた点においても大変有意義であった。



(写真左：グループワーク、中央：集合写真、右：各グループで発表準備)